

在家仏教講演会 開催ご案内

東京 時間：午前10時～11時30分
会場：中野サンプラザ7階研修室10または13（中野区中野4-1-1）
会場整理費：700円 お問合せ：03-6684-6692

10月12日（土） 迷いからの脱出—私の愚を守る
大童法慧 先生 一般社団法人悲しみを佛の智慧に学ぶ会代表理事

10月26日（土） 迷いからの脱出—人生は迷いと悟りの織物
田上太秀 先生 駒澤大学名誉教授

11月9日（土） 迷いからの脱出
阿満利麿 先生 明治学院大学名誉教授

12月14日（土） 迷いからの脱出
伊藤 益 先生 筑波大学教授

1月11日（土） 心を見つめて迷悟を知る—三国に渡る変遷
蓑輪頭量 先生 東京大学教授

1月25日（土） 迷いからの脱出—大悲の光明に照らされて
本多弘之 先生 親鸞仏教センター所長

2月8日（土） 迷いからの脱出
末木文美士 先生 東京大学名誉教授

2月22日（土） 迷いからの脱出
ケネス田中 先生 武蔵野大学名誉教授

大阪 時間：午後3時～4時30分
会場：堂島アバンザ5階または14階会議室（北区堂島1-6-20）
会場整理費：500円 お問合せ：06-6346-7000

11月15日（金） 演題未定
山田法胤 先生 法相宗大本山薬師寺長老

3月6日（金） 演題未定
奈倉道隆 先生 東海学園大学名誉教授

いのち尊し

第30号
いのち尊し
令和元年10月1日
公益社団法人
在家仏教協会
〒101-0062
東京都千代田区
神田駿河台3-3
五明館ビル202号
TEL
03-6684-6692
FAX
03-6684-6709

輪読会「鈴木大拙を読む」報告3

「万葉集」に見る宗教意識

常句芳樹（協会会員）

輪読会「鈴木大拙を読む」の三回目会合が九月十八日、在家仏教協会の事務所で開かれた。八月は休会したので、二か月ぶりに顔を合わせた。今回の参加者は八名。

テキスト『日本の靈性』（角川文庫版）の四十五ページで大拙先生は、奈良時代の宗教意識に関して要旨次のように記す。

《古代の日本人には深刻な宗教意識がなかった。それは、宮室から庶民に至るわれらの祖先が、その精神生活を赤裸々に歌った『万葉集』の文学からわかる》

ここには仏教伝来の歴史、聖徳太子、聖武天皇、東大寺など仏教史でなじみの役者が出て来ない。『万葉集』だけを題材にした理由は、「文学」の証明力と「皇族や貴族の宗教意識に加えて庶民の声を聞くべき」とのことらしい。書

かれてないが、もう一つの背景に「『万葉集』は日本人が誇る精神の源泉である」との当時の風潮に、大拙先生は一石を投じる思いを持っていた点を加えたい。

万葉人の宗教意識の内容を大拙先生はどうおさえたのか。同じページの中で《自然人の心持が歌われているが、一たびも試練を経過して居ない。嬰孩性（えいがいせい、子供っぽさ）を脱却してない》と断じる。

全体的な見方に続いて、最初に富士を描いて名高い、山部赤人の歌の一節を紹介。続いて梅、鶯、雪など題材にした歌を三首引用しながら、万葉人の自然趣味を解説する。次は男女の愛をテーマとした「相聞」の歌について大拙先生は、おおよそ次のように辛口のコ

メントをする。《愛慕、悲しみは表現されているが、子供らしい自然愛の境地を出て居ない。恋愛の悲劇は人間を宗教に追い込む一つの契機となるのだが、これには成熟した頭脳が求められる》と先の「嬰孩性」の指摘につなげる。続いて宴の席で詠まれた「酒」をめぐる歌を三首引く。中国やペルシャでは酒と宗教がつながっていたが、万葉集には感じられないと、大拙先生は、《生者必滅、六道輪廻の思想もあるが、現世肯定の態度は感覚的》と書く。

さらに「挽歌」を取り上げて論評を続ける。奈良時代の貴族や僧侶は、「論語」「仏典」を読み、儒教、仏教の素養があったことは事実。水の泡に無常を感じ、死を前に彼岸を読み込んだとされる歌も、数は少ないがあるとされる。しかし、大拙先生は五つの歌を解説して、《仏教思想は類型的で、般若的境地には至っていない。否定を通じて肯定の発想がない。》と、その宗教性を格下げする。

この後に大拙先生は、「神」を主題にした歌を五首引用して、宗教性を論じる。その思想は《利益交換性》の告白でしかなく、《本當の宗教》を知らないと言いつ切る。天皇の御子の薨御を詠んだ歌を俎上に挙げて、結局そこにあるのは宗教心ではなく「清明」を尊ぶ心だけと結論づける。

報告後の論議では、「万葉集にはもつといい歌がある。大拙先生の歌の選択に問題がある」「宗教には現世利益の要素もあり、これをすべて否定する見方は問題」など、意見も出された。これに对应する形で「詩歌の視点から万葉集の文学性を論じること、思想としての宗教意識を考えることは切り離すべき」「現世利益の定義を明確にした上で、仏教の本旨から問題を考えるべき」との意見も続いた。

古代日本で欠かせないと思われ聖徳太子を取り上げてないことについて、報告者の私から追加的に問題提起して「その背景には神仏習合に距離をおく大拙の仏教観が関係している」と述べた。この先生の考察を追いかける作業は、次回（十一月二十日）の範囲である「平安時代」へと続く。

この一冊

オマル・ハイヤーム『ルバイヤート』(岩波文庫)

菅原伸郎 (協会会員)

本号第一面で紹介されている輪読会「鈴木大拙を読む」の九月例会で、『日本の霊性』(角川文庫版四十七頁)の《ペルシヤ人の宗教にも酒徳をたたえるものがある》という一節が話題になった。その根拠・出典は何だろうか。本文では特定されていないが、おそらくは十一、二世紀ペルシヤの詩人オマル・ハイヤームによる『ルバ

イヤート』(岩波文庫、小川亮作訳、一九四九年)ではないか。十九世紀から英訳や邦訳があったから、大拙先生が手に取っていて不思議はない。まずは、次の四行詩を読んでみよう。

(141)

もうわずらわしい学問はすてよう、
白髪の身のなぐさめに酒をのもう。
つみ重ねて来た七十の齡(よわい)の盃(つき)を

今この瞬間(とき)でなくいつの日にたのしみ得よう?

ハイヤームは一〇四〇年ごろ、

在家仏教協会 四つの信条

- 一、釈尊の説法虚言ならずと信じていること。
- 二、釈尊の説法の内容そのものは永遠の真理であるが、それを大衆に知らせる手段は、時と処と人に応じつねに新鮮でなければならぬと信じていること。
- 三、呪術らしきものは一切排除すること。
- 四、在家生活のまま仏教に生きようとしていること。

在家仏教通信

「大法輪十一月号」に在家仏教講演会の講演録が掲載されました

「非俗」の実践

阿満利磨

(明治学院大学名誉教授)

平成三十一年一月十二日(土)中野サンプラザで開催されました定期講演会において、阿満利磨先生よりお話を伺いました。

今月(十月)より事務局体制が一名となります

事務所を留守にすることが多くなりまして、ご理解とご協力をお願い致します。

会員を募集しております

私どもは、皆様の会費によって活動しております。協会の発展のためにご協力を宜しくお願い致します。

イラン北東部のネイシャプールで生まれ、一・二三年に八十歳前後で亡くなっている。若いころは数学や天文学に詳しく、天文台建設や暦法の研究で活躍したらしい。本書の解説によると、日本なら平賀源内、西欧ならレオナルド・ダ・ヴィンチのような知性派だったようだ。しかし、その後の人生に何が合ったのか、それらは「わずらわしい学問」となり、遺された詩作はいわば酒浸りである。

(94)

はじめから自由意思でここに来たのではない。

あてどなく立ち去るのも自分の心でない。

酒姫(サーキイ)よ、さあ、早く起きて支度をなさい。

この世の憂いを生(き)の酒で洗いなさい。

一行目の「ここ」とは、この穢土・現世のことである。そして、だれもが否応なしに闇へ消え去らねばならない。これは、私自身もいつのころだったか、会社の帰りに安酒場で味わった切なさではないか。

の40%が限度)2,000円の控除することができます。

事例

年中の総所得金額が500万円、寄附金の合計額が20万円の場合20万円-2,000円=19万8,000円が、総所得金額より控除されます。

★法人税

法人が支出する寄付金は、その法人の資本金等の額、所得の金額に算入されます。このとき、公益法人に対する寄付については、一般寄付金の損金算入限度額とは別に、別枠の損金算入限度額が設けられております。

事例

資本金が10億円、年中の所得金額が1億円の場合
①一般損金算入限度額Ⅱ(10億円×2.5/1000)+ (1億円×2.5/100)×0.25
Ⅱ125万円
②別枠の損金算入限度額Ⅱ(10億円×3.75/1000+1億円×6.25/100)×0.5
Ⅱ500万円
したがって、①②の合計額625万円の損金算入が認められます。

しかし、それにしても大拙先生はなぜ、酒に宗教性を見出したのだろう。それはきっと、知性と健全さだけでは人生の真理に出逢えないことを知っていたからだ。人はいつか、わが身が愚かで悪人であることを知らねばならない。そうであれば、あの散財もあの失敗も、そう、むだではなかったか、と思えてくる。

もちろん、これだけでは居直りに終わる。少しは哲学的な作品も紹介しておこう。
(108)

迷いの門から正信まではただの一瞬(ひととき)、
懐疑の中から悟りに入るまでもただの一瞬。
かくも尊い一瞬をたのしくしよう、
命の実効(しるし)はわずかにこの一瞬。



原稿をお待ちしています

- ◇随想「仏教と私」(八百字以内) 人生を振り返って仏教と出逢ったときの感動をお書きください。
- ◇読者からの手紙(八百字以内) 講演会(講演録)の感想などをお書きください。
- ◇コラム「この一冊」(八百字以内) 感銘を受けた書籍を紹介してください。新刊だけでなく、思い出の本も歓迎します。著者名、出版社名、発行年を忘れずに。

*

原稿用紙またはメールに添付して、左記宛てにお送りください。住所、氏名、電話番号、よろしければ職業と年齢もお書きください。読みやすくするために、あるいは編集上の都合で、趣旨を変えない範囲で削ったり直したりする場合があります。採用分には薄謝をお送りします。原稿の送り先は、〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台三三三 五明館ビル 二〇二 在家仏教協会「いのち尊し」係。メールはkamimura@zaikeshuikyoto.com.jp。